

本協議会の今後の進め方

令和5年3月7日
国土交通省 航空局

1. 運航の改善に向けた工程表の改定

運航の改善に向けた工程表

国土交通省航空局「航空機運航分野におけるCO2削減に関する検討会」
 (委員長:屋井 鉄雄 東京工業大学教授)にて、令和3年12月10日に取りまとめ
 ※「機材・装備品等への新技術の導入」、「SAFの導入促進」の分野についても、同様の工程表を作成

工程表の基本的な考え方

- 航空交通量の増大に対応するとともに、運航効率の改善等によりCO2排出量の削減に取り組む必要がある。
- 将来の航空交通システムの進展や技術開発の動向を見越しつつ、航空交通全体の最適化と航空路・出発及び到着・空港面における運航フェーズごとの改善策それぞれについて、短期的取組を実行に移すとともに中長期的取組を段階的に推進していく。(今後の取組において、10%程度のCO2削減を目指す)

●凡例 **1. 準備・導入フェーズ** **2. 試行・実証フェーズ** **3. 運用・拡大フェーズ** **更なる高度化**

		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	～2030年	～2040年
総合管理		今後、「CO2削減協議会（仮称）」を設立し、下記のような取組を検討し、推進していく。						※ 年は暦年を表す。
航空交通全体	空域の抜本的再編	上下分離の段階的实施					本運用	将来の航空交通システムの進展や技術開発の動向を踏まえながら、航空交通全体の最適化等について、更なる取組を推進
		空域の境界（高度）のリアルタイム変更				本運用		
		空域の境界（高度+水平位置）のリアルタイム変更					本運用	
	運航情報の共有による飛行計画の調整	デジタル情報共有基盤（SWIM）構築 → FF-ICE（運航前軌道調整）					試行運用	
		SWIMの外国との接続 → FF-ICE（運航中軌道調整）						
時間管理の実現（交通容量管理を含む。）		メタリングの導入					本運用/機能拡大	
航空路	高度・経路の選択自由度の向上	洋上航空路における飛行高度最適化					試行運用	本運用
	迂回の少ない飛行ルート	高高度フリールート				試行運用	導入空域拡大	
出発・到着	就航率の改善（高度化された航法の導入推進）	RNP-AR 運航基準見直し					導入空港拡大	
		SBASを用いたRNP進入方式の導入					試行運用	高度化/導入空港拡大
	燃費の良い上昇・降下の実現	継続的な上昇・降下（CDO等）が可能となる運用					導入空港拡大	
空港面	地上待機時間の短縮	ACDM統合、AMAN高度化開発				機能実証		
	地上走行の最適化	自走距離の短縮				試行運用	本運用/導入空港拡大	

※ 表内部の記載は取組例。

2. 今後の本協議会における議論

今後の議論について(案)

今後、下記のような取組について、協議会において議論していったらどうか。

- **新たな運航方式等を用いた脱炭素化の取組の検討**
(取組イメージ) 新たな運航方式等を利用した脱炭素化における有効性の検討
- **関係者取組事例の共有**
(取組イメージ) 各社の取組状況の共有及び水平展開
- **運航の改善に資する研究開発等の共有**
(取組イメージ) 取組状況を共有し、研究開発機関等と連携
- **運航の改善に資する取組の見える化**
(取組イメージ) 運航の改善に資する取組のモデルを具体化し、見える化
各社の運航データを集計・加工し、CO2排出のモデル係数を整理

次回協議会は5～6月頃を想定。

(内容)

- 運航の改善に向けた工程表の改定案
- 今後の議論について(案)
- 構成員からの取組紹介 等